



山本みつ子さん  
仕事：印刷業 泉町在住

夫は29歳の若さで、印刷業の独立を決めた。「やったらいい」と山本さんは反対しなかった。得意先企業というものがなかったところからの出発だった。「子育てをしながらも家にいてもしょうがない」と、つい仕事場へ…無我夢中のときだった。夫は印刷と営業。自分は文字組みと経理。少しづつ二人の仕事の役割もできてきた。「私にとって仕事とは、理屈でなく生活そのもの、私が生きていく流れです。働く中で人と接したり、話をしたりが違和感無く楽しめる。仕事は私自身でもあるんです」家のことや子育ての協力は、目の前で夫が働く姿を見ると頼めない。楽しんでるなら別ですけど。家事や子育ては、自分のやれる範囲のことをやるだけ、それでいいんだと思ひ、家族もそう思ってくれる。それで不満を言われるわけではない。

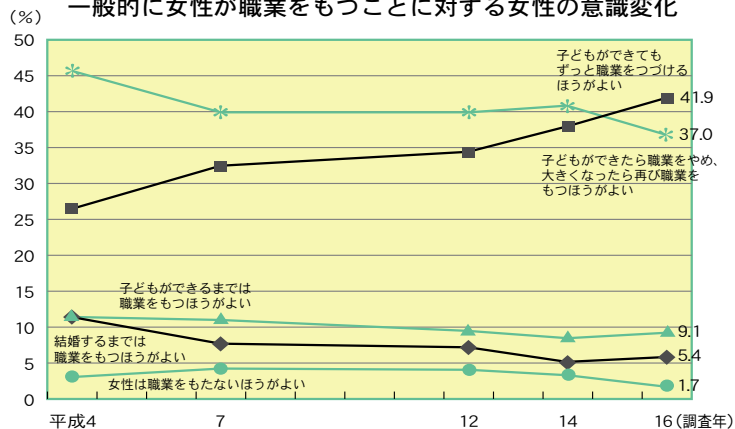
職住が一緒に、仕事仲間でもあり夫婦でもある自分たちに気分転換をと、

近くに家を買ったが「仕事場で喧嘩をした同じ人間が行ったり来たりするんで変わらないんです(笑)、ま、いいかって感じで」作業役割も決まっている印刷業で夫婦喧嘩は長くは続けられない。仕事の流れを止めてしまうと最悪になる。不満があっても別の部分に目を向けると、その不満がだんだん小さくなり、そんな時「ま、いいかって」思えてしまう。

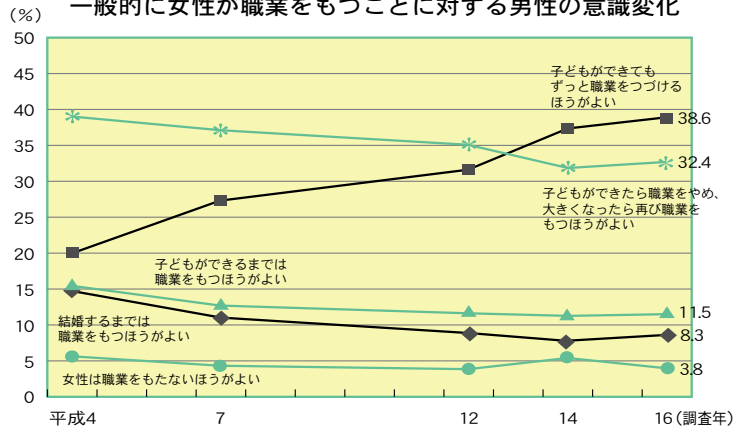
自分の居場所を見つける楽しさ

「自分の仕事は文字組み、良いものができる嬉しい。お客様に評価される瞬間も楽しい」物を作る仕事は、毎回違うものが作り上げられる喜びがある。30年近く夫婦のスクラムで印刷業を続け24時間365日一緒という山本さんに友人たちは驚く。「夫の良いところも悪いところもみんな見ていたい、それが私です」趣味も共にしている。7年前、夫の映画好きが高じてシネマクラブを立ち上げた。地域在住の佐藤純彌監督の協力もあり、毎年の映画祭や自主制作映画コンペティション等の企画をする。山本さんは映画そのものよりも、仲間たちと一緒に何かをすることに魅力を感じている。「映画を上映するまでにいろんな役割がある。仲間と一緒に、これとそれは私がやるのか決めていく。楽しい時間です」最初は夫に付き合いますが、しっかりと山本さん流の楽

一般的に女性が職業をもつことに対する女性の意識変化



一般的に女性が職業をもつことに対する男性の意識変化



(備考) 1. 内閣府「男女共同参画に関する世論調査」より作成。  
2. これらの回答の他に「その他・わからない」があるため、合計しても100%にならない。  
資料出所：内閣府(平成17年版男女共同参画白書より)

しみに変えてしまう。「難しいことは考えません。これが自分の住んでる星ならそこで楽しめるものは自分で見つけたらいい、そういう性格なんです」

「女性は、主婦でいても、働いていても、何かをやるという意識を持って暮らすことが大事。何となく時間を過ごすだけでは生きていく実感は得られない。身体を動かすことは、心を動かすこと、そうすれば必ず何かにつかえる。そこでどうしようかと考える。その継続が生き延びることを楽しくする気がします。マイナス思考にならないことです」と若い女性たちにエー

ルを送る。説得力のある山本さんの実践哲学でもある。

今は息子さんと3人のスクラム。業界の展望の厳しさに目を向けつつも、楽しく仕事を続け、楽しく人と繋がり自分の居場所をたくさん作りたい、そんな山本さんの笑顔を感じた。

